

## 令和2年産水稲の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (高知県)

### 【調査結果の概要】

#### 1 作付面積

令和2年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万2,400haで、前年産に比べ100ha（1%）の減少が見込まれます。

なお、水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は1万1,200haと見込まれます。

#### 2 作柄概況

##### (1) 高知県及び作柄表示地帯別

高知県の10a当たり予想収量は447kgとなり、前年産に比べ27kgの増加が見込まれます。また、作況指数は97（やや不良）と見込まれます。

作柄表示地帯別では、10a当たり予想収量は中東部が457kg（前年産に比べ10kg増加）、西部が432kg（同52kg増加）と見込まれます。また、作況指数は中東部が95（やや不良）、西部が101（平年並み）と見込まれます。

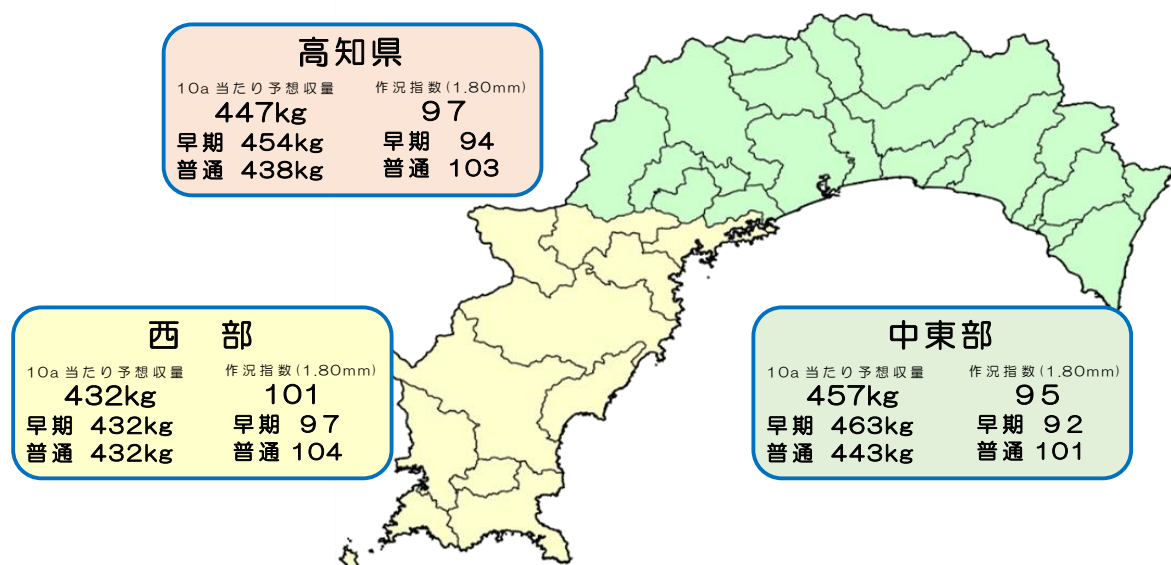
##### (2) 早期栽培

穂数は、田植期以降気温が低く、初期生育に遅れがみられたことから、「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期にあたる6月の天候が良好であったことから「やや多い」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「やや多い」となりました。

登熟は、全もみ数がやや多くなったことによる相反作用に加え、7月の日照不足等の影響により「不良」となりました。

以上のことから、早期栽培の10a当たり収量は454kgとなり、前年産に比べ1kg減少しました。また、農家等が使用しているふるい目幅（高知県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は94（不良）となりました。

図 作柄表示地帯別、作期別10a当たり予想収量及び作況指数（9月15日現在）



(3) 普通栽培

穂数は、6月上・中旬が高温多照で経過したことから「平年並み」となりました。1穂当たりもみ数は、7月上・中旬が低温寡照で経過したものの、幼穂形成期にあたる7月下旬から8月上旬が高温多照で経過したことから「やや多い」となりました。この結果、全もみ数は「やや多い」となりました。

登熟は、8月中旬以降高温多照で推移しているものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用に加え、9月以降の天候不順等により「平年並み」と見込まれます。

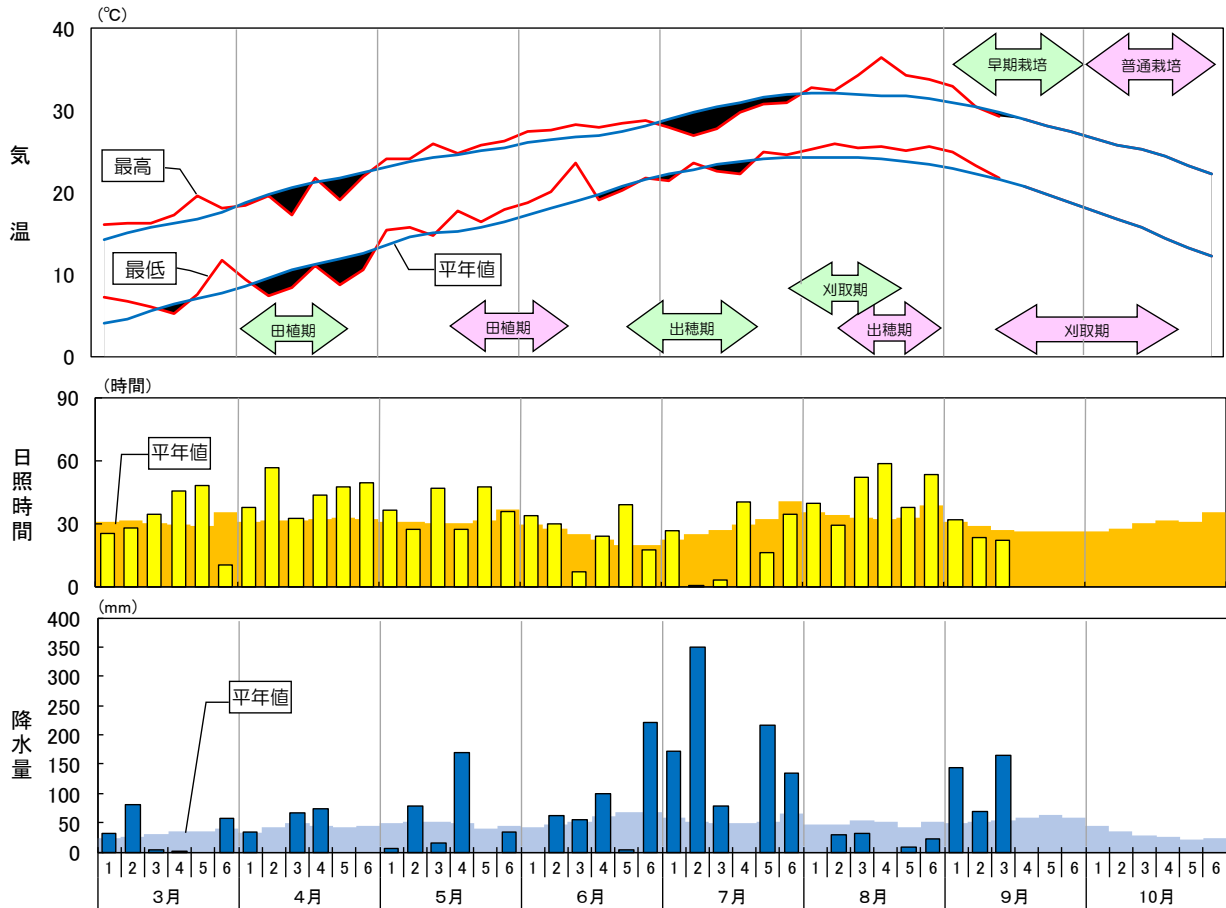
以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は438kgとなり、前年産に比べ63kgの増加が見込まれます。また、作況指数は103（やや良）と見込まれます。

3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量に乗じた予想収穫量（主食用）は、5万100tと見込まれます。

◎半旬別気象図

高知市の気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。統計表や調査の概要等は、同資料をご覧ください。

お問い合わせ先

中国四国農政局 高知県拠点 統計チーム 担当：田中、上枝  
電話：088-824-7900 FAX：088-820-0202